



桂春院 妙心寺塔頭

国指定名勝の庭園と、ひそやかに受け継がれる茶の湯文化



桂春院 山門

基本情報

創建	慶長3年（1598）	開基	津田秀則
所在地	京都市右京区	現在の伽藍	寛永8～9年（1631～1632） におおむね整備
本尊	薬師如来	主な特色	桂春院庭園、狩野派の襖絵、 茶席「既白庵」

概要・歴史

桂春院は、京都・妙心寺山内に位置する塔頭寺院です。慶長3年（1598）、織田信忠の次男・津田秀則が見性院として創建しました。その後、石河壺岐守源貞政が寛永8～9年（1631～1632）に方丈、庫裏、書院、茶室などの主要な建物を整備しました。

寺名は、貞政の父の法名に含まれる「桂」と、母の法名に含まれる「春」を合わせて「桂春院」と改められたものです。江戸時代初期の建築、絵画、庭園、茶の湯文化が密接に結びつきながら、現在まで受け継がれています。

見どころ

禅の伝統、歴史ある建築、静謐な庭園が一体となり、心静かに自らと向き合う修行の場を形づくっています。

01

方丈と狩野派の襖絵

寛永8年（1631）建立の方丈には、本尊の薬師如来が安置されています。室内には狩野山雪による水墨の襖絵が残り、山水、枯木と鴉、老松と滝など、多様な画題が各室を彩ります。



桂春院を構成する4つの庭の一つ

02

桂春院庭園

国の名勝に指定された桂春院庭園は、「清浄の庭」「侘びの庭」「思惟の庭」「真如の庭」という4つの庭から構成され、悟りへの道を表しています。植栽や庭の趣は、季節とともに表情を変えます。



方丈に残る狩野派の襖絵

03

茶席「既白庵」と露地

既白庵は、書院の奥にひそやかに設けられた茶席です。かつて妙心寺では坐禅修行が重視され、僧侶が茶の湯をはじめとする芸事に親しむことが戒められていたため、茶席や露地の蹲踞は、外から目立たないよう工夫されました。外露地、中露地、内露地へと続く構成が、静かで侘びた趣を生み出しています。

04

寺宝

重要文化財に指定されている無明慧性の墨蹟をはじめ、著名な禅僧による墨蹟、茶碗、水指、千利休や藤村庸軒にゆかりのある茶杓などが伝えられています。